

矢野さんの思い出

高教一



嗚々永年敬愛の的であった矢野松三郎さんがお厚き御介抱も空しく去る二月二十日遂に鬼籍に入られました事は今もって私の許め切れざる歎きで耐えられません。

職場を共にしてから五十年余りの御交際、その回想は走馬燈の如く尽きませんが偲び草ともなれば良いと思ひ若かりし日の矢野さんの片鱗をお伝えすることも何かの御縁でしょう。

大正六年の春、鈴木化学試験所が神戸製鋼所構内から兵庫製油所内に新築が落成、移転が終り、私は高尾君と共に彦島精練所に赴任し、小森江の済美寮に起居することになった。而して神戸工業校出身の堂の下君とその大広間に同居し何かとお世話を受けた。入浴後は毎夜のように寮員数名が遊びに詰

めかけた。昨年故人となられた滝君や増田君からは、門司市の裏の風頭山の話や鈴木北九州の工業発展の模様、殊に彦島精練所建設当時の波乱万丈の苦心談等詳細話された。

翌年四月頃、下村尚美所長は網干のセルロイド工場に転任せられて、戸坂隆吉氏が代りに赴任されて来た。ここで始めて矢野松三郎さんと奇しくも温顔に接する機会を得た。元旦の休みは新入寮者のための懇親会が開催されることとなり、私と矢野さんがその世話役を仰せつかった。当時のこの寮は鈴木木の事業所の独身が多数占めていた。当時神鋼門司伸銅工場建設中であり仲々活気が漂っていた。

赴任してから日の浅い私共は寮員とは馴染みが薄かったにもかかわらず、親睦会を初め庭球、柔道、剣道、講演会等開催される日も多く仲々盛んで愉しかった。

話を事業所の方に切りかえませんが、電気分銅工場の準備が終った頃、後藤幹夫氏は帝国人絹に、山本氏は豊年製油に転任され又最も親しかった矢野さんも本店冶金部に転任されて聊か寂寞を感じた。

それから私は電気分銅の技術部を担当することになったが、ここで私は青銭処理工業の一大事にぶつ

かりとんだ苦勞の種をつくった。青銭処理工業に最も必要とする原料の厘銭の輸入が予定通り入荷出来ず、一方日比精練所の粗銅も材料も欠乏するばかりになり心細く前途の見透も暗くなつて来た。

又それに加え青銭の副産物なる亜鉛の回収の電気亜鉛企業は水素瓦斯の発生甚だしく今で云う公害問題である。従業員のための苦痛が甚だしく全く手のつけられぬことになった。

之は技術的の見当の狂いが斯う云う結果を来したと思われる。肝腎の発案者の吉原重威君はどうと顔をみせず仕舞い。大阪亜鉛の技術を持込んだ足立君と鹿兒島窯業出身の堀口君とは常に馬が合わず足立君は遂に辞職した、従って此等の不安定な企業をひと先ず整理することになり一〇〇名以上の従業員が離散の憂目を見たが神鋼門司伸銅所へ大部分採用された事は全く不幸中の幸であった。この時、永年職場を共にした方々と別れるのは誠に感慨無量の思いであった。

矢野さんの代りに大岡君が来られたが工場事務に不馴れの為何の時の間にか事務所から姿を消した。その後菊池君が来て真剣に原価計算を手がけたが原料の賜極は

過ぎ、本格的な国土建設の時代になりますと、業容も在来品に加え、トロ車輪、ナベトロの土砂運搬機から逐次、動力ウインチ、コンクリートミキサーの生産販売を開始されました。

時あたかも静岡県天竜川上流の佐久間ダム建設工事現場を見学せられ、一段と建設機械の将来性を見透され、パッチャープラント、アスファルトプラント、ベルトコンベア、建築用仮設機械等の製作販売に社業を拡大され、現在年商一六〇億に近い日工を育て上げられました。

その間、会長の企業経営の理念は矢野精神とも申し上ぐべきもので、当時社の重童共は「エンヤラの精神」と申し上げて居りましたが、常に大地に足を踏え、動ずることなく着実に努力して歩を進めると共に、一旦機の熟するや、猛然と進まれる精神行動を以って、我等を慈愛こもる、態度を以って育成されました。先に天満副社長、野村専務、吉本副社長が相次いで亡くなられた時に、その甲辞に「正に私は、両腕片足をもぎ取られた一本足のカカシである。しかし私は悲観しない。諸君が育て上げてくれた新進鋭の士が沢山居る、是等の人達が、君の死に

電解槽に投げ入れて数ヶ月経たなければ結果が判明せぬことから損失が表れず当惑され不安に思ったのか転出を希望してこの人も又去った。

その後事務担当者が空席となつたので矢野さんに再び彦島に来て戴いて意を強くした。忽ち工場の雰囲気が一変に明るくなったようだった。矢野さんは谷山君と二階の北側の関門海峡に面した部屋に私はその向いの静かな部屋で山林を前にして仕事に励んだ。神戸商業出身の宮崎君とは一緒に寝起きをしていた関係上、毎夜の様に仕事の話が多く、又矢野さんは人一倍研究心が強く結論実行形のきびきびした御性格で私とは常に気が合った。或る日の夕方社から帰る途中、浦江の方に行つて見ようと云われ大里から二十町からの山越しに雑談を続けながら同伴したものの咽喉は乾くやら空腹を覚えるやら田舎道に店屋はなしお互に疲れ切つたので又の目を約して帰途に就いたが偶々峠に山小屋があり、そつと覗くと豆腐屋らしく仕事をしているの飛び込み豆腐を分けて貰い一人で三丁つべろつと平げた。この味は又格別で大いに元気が出たが時刻を聞いて十二時であることに気がつき驚いて門

よって一層奮い起ち、遺志をついで立派に社業を守ってくれ、尚それ以上に発展させてくれることを私は信じて疑わない。その実りの秋まで、一本足のカカシは立ち続けることしよう」と、靈前に告げられ、その通りよくぞ今日迄、稲田に立ちつづけ我等をお守り下さいました。今や一本足のカカシは地上を離れ、天高く舞い上がってしまったわれました。たとえ身は雲上、地上に別かれても、雲上からの声なき声は、我等の心の耳に聞えます。

日工マンの心には、会長の雲上からのお声がよく聞えるのです。願わくば、永遠に我社を見守られると共に、ご生前にもました激励のお言葉を頂戴いたすことを祈りまして甲の詞といたします。

昭和四十八年三月一日

限も越えている事でもあり気が気でなく坂道を急いで松林の月照りを便りに無事寮に帰ることが出来たのは二時を廻っていた。このよう矢野さんとの思い出話は筆紙に尽きませんが、この辺で今回は擱筆させて貰います。

終りに臨み謹んで矢野さんの御冥福を祈つて止みません。

前号に矢野松三郎さん自ら「冥土から帰つて来た八十翁」と題して長文の述懐談をお寄せになり、九死に一生を得られた喜びをお伝えられた事は耳新しい事でありました。然るにその後の御容態刻々凶悪に向われ御夫人初め皆々さんの御看護も空しく遂に鬼籍に入られました事は今だに信ずることの出来ぬ痛恨事であります。茲に前号の御絶筆を再読して謹んで御冥福を祈るばかりです。(編)

日工株式会社 八巻信郎 謹んで甲の詞を申し上げます。故矢野会長には、昨年八月突然腹痛に見舞われ、明石市民病院に入院されましたが、日頃とてもご壮健のおからだだから、すぐ全快されることだろうと思つて居りましたが、一時は危険状態になり、

弔辞

今は亡き杉山金太郎翁のご霊前に謹んで告別の辞を捧げます。昨年九月ご入院以来、私達一同は、あなたのご快癒を心から祈念致し、是非とも百歳の長寿を完うして頂きたいものと念願致しておりました。

天寿とは申せ、本日茲に永遠のお別れをせねばならないことは、誠に遺憾の極みであり、うたた寂寞の思いに堪えません。

顧みれば、あなたは明治八年九月和歌山県永穂村に「々」の声をあげられ大阪市立大学商学部の前身である市立大阪商業学校を卒業後、実業界に身を投ぜられ、大正十三年五月をわけて当時創業期にあった豊年製油の社長に就任されました。思えば、それは五十年前あなたが五十才の時でありました。

爾来半世紀に及ぶあなたの生涯は、社業発展への努力の連続であり、また日本に於ける食用油脂産業発展の生ける歴史そのものでありました。あなたの半世は、名実ともに我国大豆製油産業の先駆者として大豆油の食用化と大豆蛋白の各種用途の開拓に捧げられたのであります。

その功績に対しまして昭和十七年六月紺綬褒章を昭和三十年十一

杉山金太郎氏弔辞

豊年製油株式会社 取締役社長 吉井 泰次



その間、我が国の政治経済は洵に

必要とされた土工具の生産をいちはやく開始されました。その様相は、明石市民のみならず、多くの人々の驚きであり、賞賛的でありました。戦後の混乱期もやがて

一般%収支表

47.12.1~48.6.30

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越		喜寿祝大盃代	262,200
現金	46,796	たつみ誌18号印刷代他	317,400
富士銀行	4,905	新年例会及大会費用	826,286
三和銀行	2,276,994	旅費交通費及通信費	149,495
仮払金	14,700	大会案内状及暑中見舞ハガキ印刷代	49,950
小計	2,343,395	東京支部経費資金	200,000
賛助金別紙明細	29,000	雑費	96,174
広告代	840,000	名刺交換振替手数料	4,335
会費	576,000	小計	1,905,840
雑収入	20,482	現在高	13,243
たつみ誌18号	171,000	現金	4,905
新年名刺交換掲載料		富士銀行	2,041,189
小計	1,636,482	三和銀行	14,700
合計	3,979,877	仮払金	
		小計	2,074,037
合計	3,979,877	合計	3,979,877

供養塔%収支表

47.12.1~48.6.30

収入の部	金額	支出の部	金額
自42.3.3 至47.11.30 収入	5,237,000	自42.3.4 至47.6.30 支出	4,131,398
松永ヨネ氏	5,000	48年度供養塔管理費祥竜寺	35,000
		祥竜寺ゆき往復タクシー代	1,370
		物故者位牌代極楽堂	12,000
		小計	4,179,768
		残金内訳	1,062,232
		預ケ金	800,000
		三和銀行	262,232
合計	5,242,000	合計	5,242,000

広告収入明細書

47.42.1~48.6.30

会社名	金額	会社名	金額
神戸製鋼所	150,000	日中毛織	30,000
帝人岩井	150,000	日中塩属	30,000
商陽工業	150,000	東邦金商	30,000
日輪ゴム	30,000	帝人	30,000
日本精産	30,000		
日華	30,000		
		12社	840,000

賛助金明細

47.12.1~48.6.30

氏名	金額	氏名	金額
米田幸吉	10,000	山崎佳樹	5,000
下雅意	5,000	高畑誠一	3,000
高畑誠一	6,000	合計	29,000

月業界初の藍綬褒章を授賞昭和十九年五月生存者叙勲に際し勲三等瑞宝章を受けられ、このたび五位に叙せられ銀杯を賜わりました。あなたは、経営者としては常に社員の陣頭に立って率先垂範され、仕事には飽くまで厳しく性剛直にして終生不動の信念と強固なる意志をもって貫かれました。また、類稀なる天性の健康に恵まれ、数々の偉業を残されましたが、その反面家庭の人としては他人のほかり知れない淋しさとご苦労を一身に受けとめて来られたのではないかと拝察致します。特に、昭和三十九年十月アメリカ出張中にご令室に先立たれ、また昭和四十五年四月には、唯お一人の御子息元太郎氏を亡くされ、一時は悲嘆の底に沈まれたかのようにお見受け致しました。しかし、再びお元気をとり戻され「百歳目指して頑張るぞ。若い者は俺について来い」と相変わらず毎朝八時前には出社されておりましたのは、ついこの頃のことでありました。



竹田儀一氏を悼む

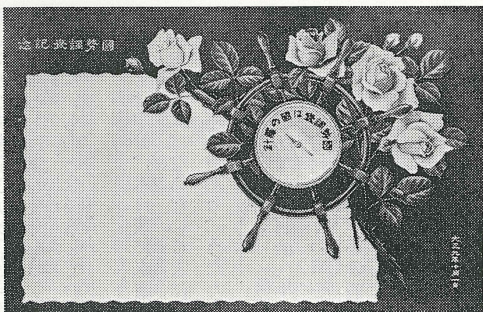
元厚生大臣であった竹田儀一氏

されておりましたのに今はそれさえもかなわぬこととなりました。杉山さん、あなたへの追憶と別れの言葉は尽きるところを知らませんが、これからは我々社員一同、あなたが身を以てお示し下さった教訓とご意志を受け継ぎ、ともに力を協せて社業発展のために全力を尽すことを誓います。何とぞ心安らかに永眠されますよう、ここに謹んでご冥福をお祈りして哀悼の意を表します。昭和四十八年三月十九日

- 昭和三十九年六月
- 七・四 鈴木商店入社
- 九・ 鈴木商店破産のため退社、弁護士開業
- 昭和六・ 大坂市会議員当選 (民政党)
- 七・ 衆議院議員当選(〃)
- 九・ 拓務大臣秘書官に就任
- 十四 大宮航空工業株式会社創立、社長に就任 (三桜工業の前身)
- 二十一・四 衆議院議員当選 (自由党)
- 予算委員長、同胞求援議員連盟理事長就任
- 大蔵省財政收支調整調査会長就任
- 昭和六・ 衆議院議員当選
- 七・ 民主党幹事長に就任
- 二十二・六 片山内閣國務大臣就任
- 二十二・十二 芦田内閣厚生大臣就任
- 二十八・四 三桜工業株式会社取締役に社長就任
- 三十二・六 福井編織株式会社取締役に社長就任
- 三十三・八 東洋メタライジング株式会社に社長就任
- 三十四・五 神鋼商事株式会社取締役に社長就任
- 四十・四 勲二等旭日重光章
- 四十・二 千代田経済懇話会世話人代表就任、至現在
- 四十四・十一 東洋メタライジング株式会社に社長就任、至現在
- 四十六・七 福井編織株式会社取締役に社長就任
- 四十八・五 従三位勲一等瑞宝章

阪神辰巳会例会案内

本年度最終の辰巳会を来る十月十二日午前十一時より神戸市垂水区東舞子一八、舞子ビラに於いて開催します。こは元有栖川宅の屋敷跡、眼前には淡路島を控え、庭内には枝振り見事な小松を配せられ風光明媚例えようもありません。多数の御参会をお勧めします。



大正九年十月一日第一回国勢調査が一斉に行われた。その時の記念えはがきである。